

中川橋

中部地方の 選奨土木遺産

令和4年度登録

所在地：愛知県名古屋市 竣工年：1930（昭和5）年

管理者：名古屋市緑政土木局

認定理由：中川運河とともに建設されたブレーストリブタイドアーチ橋で、平成末に「横取り工法」の改修により次世代へつながれた貴重な土木遺産である。

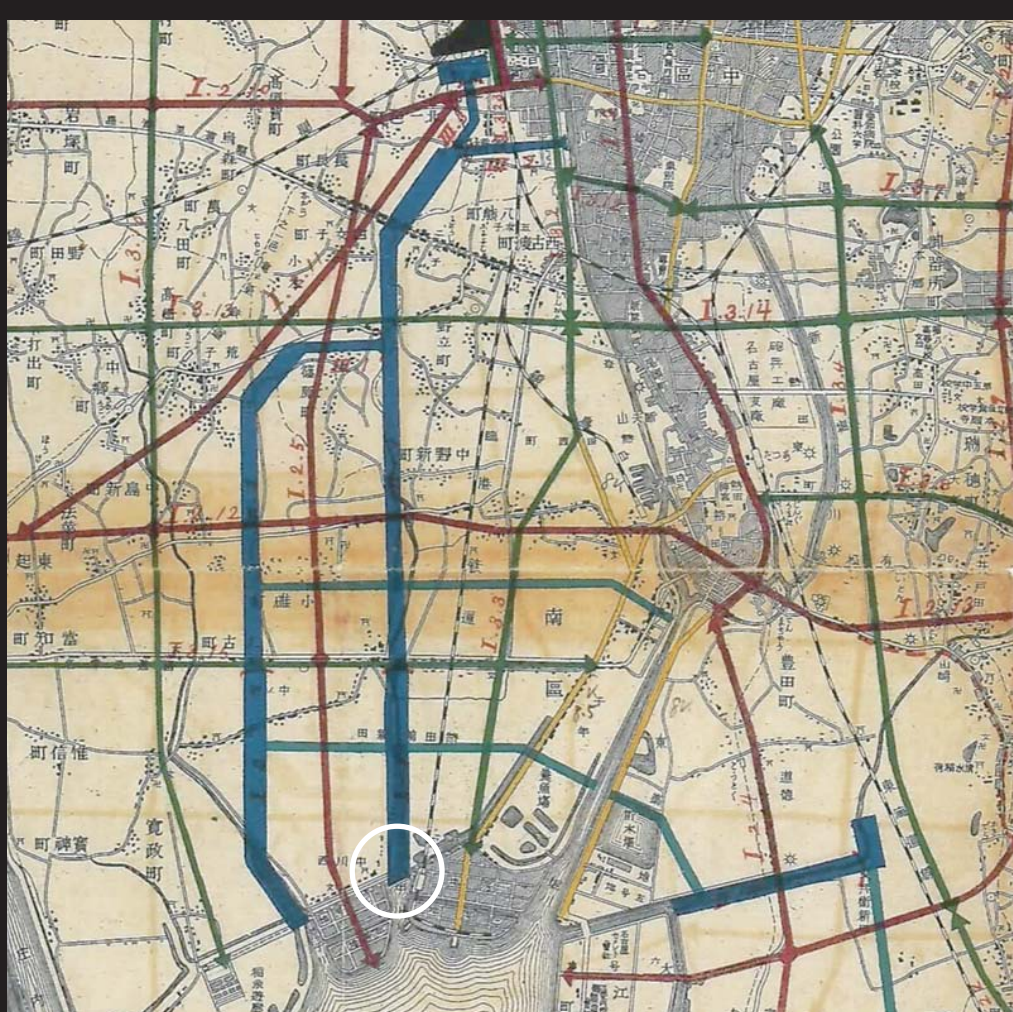


名古屋港（ガーデンふ頭）から中川口を臨む。赤い橋が中川橋、その上流に見える青い屋根は中川口閘門。国道の付け替え工事で現在は橋とアプローチが手前へ張り出している。

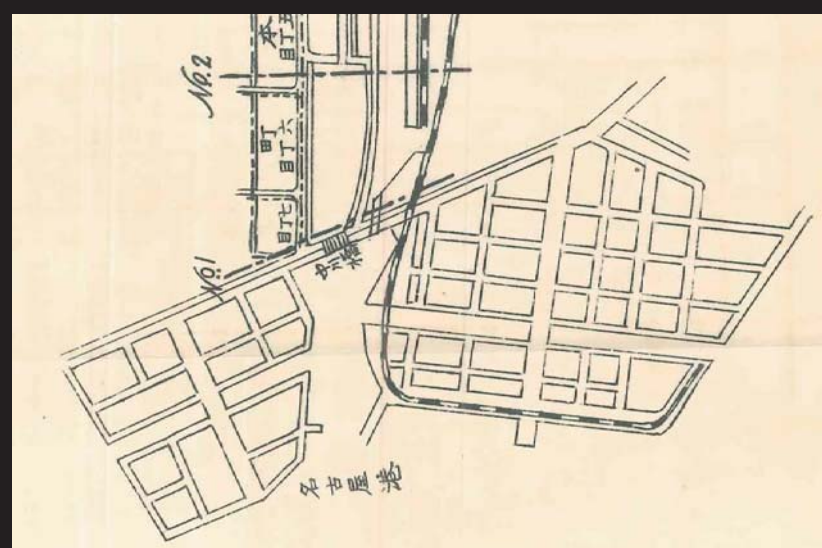
中川橋は、名古屋港から内陸の鉄道駅までを結ぶ中川運河の建設に伴い、1929年3月に着工され、翌年9月に竣工した。中川運河が都市計画決定された1924（大正13）年の時点では、この橋は計画されていないが、その後「築地電車」など、港湾施設としての輸送動線の必要性が増す中で、1926年に追加決定された都市計画道路のために計画された。ブレーストリブのシルエットに特徴のある重厚な橋が選択され、中川運河と名古屋港の境界にあたる地点を彩るランドマークとなった。

約80年後、道路を拡幅する改修工事が行われたが、名古屋市はこの橋の姿を後世に残すことを選択した。下流側に迂回道路を仮設した後に、アーチ桁部をジャッキアップして上流側へスライド。そこへ仮置きして損傷箇所を直し、疲労耐久性を向上させる工夫を施した後、新たに建設された橋台へ戻す作業、いわゆる「横取り工法」が実施された。ついに2022年に仮橋の撤去が完了、新装を見せるようになった。現在は名古屋港側の2車線をこのアーチ橋が担い、中川運河側は新しい桁橋が担う形式となっている。

このような歴史的構造物再生の試みは、単なる保存に留まらず、再び過去の技術と対峙して多くの創造を産む契機にもなり、高く評価されるべきである。

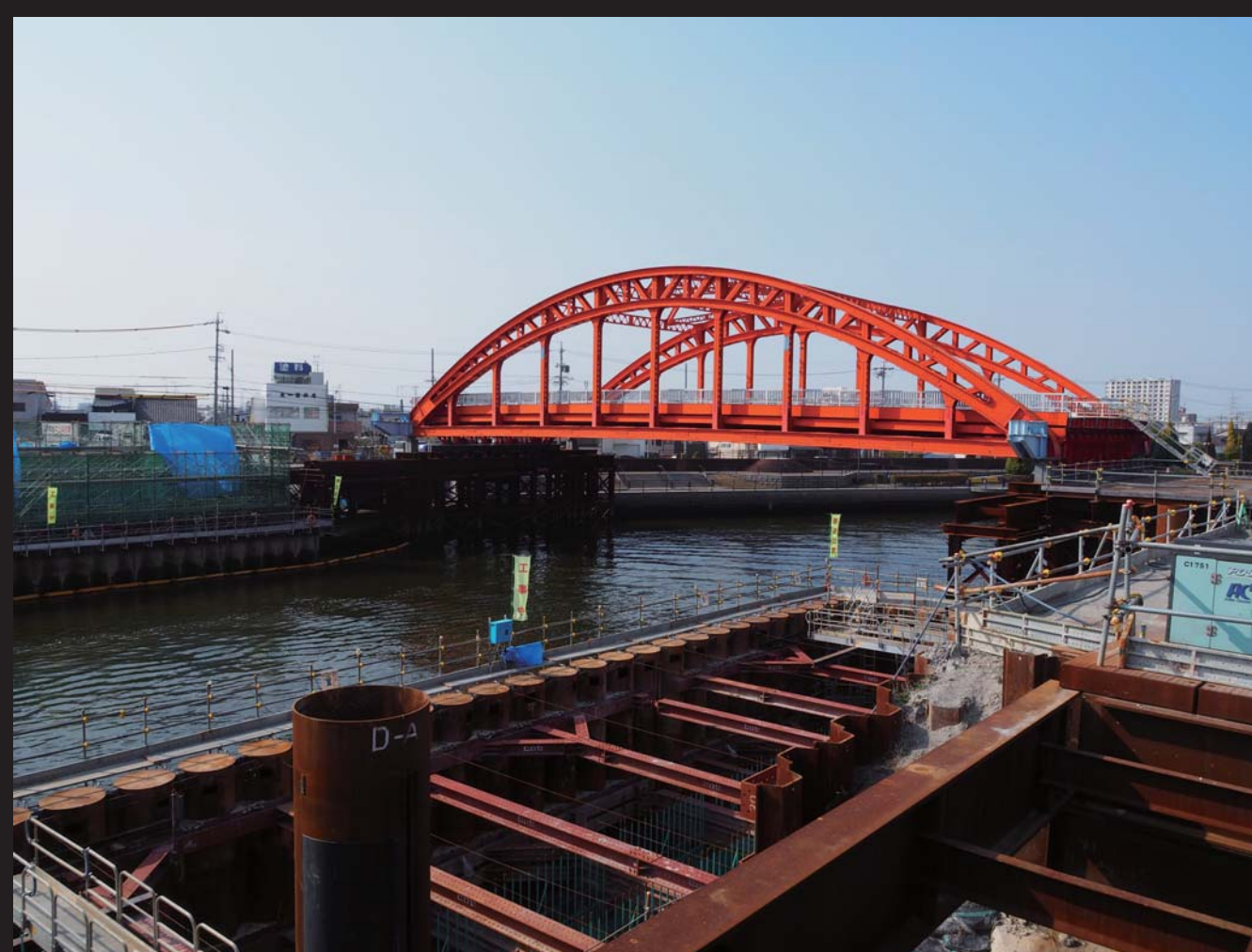


▲ 名古屋都市計画街路及運河網図
1924年街路及び運河網計画には中川橋は明瞭に描かれていない（名古屋都市センター）



▲ 中川運河建築敷地図
（名古屋市『中川運河』1933）
築地電車が中川口を渡るところに「中川橋」の位置が示され、ここが中川運河と名古屋港との節点であることが分かる。
『名古屋都市計画及都市計画事業』（1937、名古屋市土木部）に掲載された「中川運河開鑿事業」の記事で、この橋は都市計画道路「都計第四十三號線」に位置付けられるようになっている。

現在は港側の車線にのみアーチがかかる ▶



▲ 付け替え工事の中川橋（2016年2月撮影）
この位置より手前へスライドさせて現在の位置へ移設された。
▼ その際に普段見ることのできない橋梁の断面が見られた。

